

ENGLISH NOWの世界

2012 No. 1

◎三重県のある高校には、生徒たちが調理し、接客をする
高校生レストランがあります ⇨ Lesson 7 *Mago no mise*



開隆堂

CAN-DO リストの作成に向けて



明海大学准教授 高田 智子

はじめに

私が高校に上がって初めて手にしたサイドリーダーが、*Fifty Famous Stories* だった。その中に“The Blind Men and the Elephant”というお話がある。ゾウを見たことがない6人の盲人の前を、あるときゾウが通りかかる。どんな動物だろう、と1人が手を伸ばすと、ゾウの脇腹に触れた。「はてさて、これは壁のような生き物だ」。2人目が手を伸ばすと、牙に触れた。「おまえは間違っているよ。ゾウは弓のように曲がっていてなめらかな動物だ」。そして、鼻に触れた者はヘビのようだと言い、足に触れた者は木の幹のようだと言い、6人に理解して、自説が正しいと口論するというお話である。

昨年6月に文部科学省が発表した「**国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策**」(以下「5つの提言」)は、中・高等学校が「学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」することを提案している。CAN-DOリストへの注目度が高まっているが、これをテーマにした研修会に出てみると、さながら the blind men が巨大な動物のあちこちを触っているような感を覚える。私もその一人である。この新しい概念が正しく理解されるまでには、まだ長い道のりがあるのではないだろうか。

けれども、高校の職員室で「CAN-DO リスト」という用語が日常的に使われることが近々起こると考えると、これについて基本的な共通認識をもっておくことは必要であろう。理論的背景をそぎ落としてきわめて端的に言うならば、CAN-DO リストとは、英語を使って「～ができる」という記述文を技能別、レベル別に並べたものである。たとえば「聞く」ことについて、「個人や家族の情報などについて、ゆっくり話されたら理解できる」、「仕事や学校などの場面で出会う身近な事柄について、標準的に話されたら要点を理解できる」というような記述文である。もっと上のレベルでは、「標準語で話されれば、かなり複雑な話の要点を理解できる」となる(吉島他訳, 2004)。

学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定する意義のひとつは、**英語コミュニケーション能力の育成という観点から、目標を明確にできる**ことであろう。たとえばここに、自己紹介を扱う Lesson 1 があるとしよう。言語材料は5文型である。従来、この課の目標は「5文型の理解と、それを使って表現す

ること」のように、言語材料を目標の中心に据えることが一般的ではないかと思う。一方 CAN-DO リストを使うと、前述の「個人や家族の情報などについて、ゆっくり話されたら理解できる」のほか、「簡単なことばで自分について述べることができる」というような目標を達成するための言語活動として Lesson 1 が位置づけられる。読み書きについても同様である。手紙文を扱う Lesson 2 があるとしよう。「身近な話題についての日常の手紙を理解できる」、「ごく簡単な個人的な手紙を書くことができる」という目標を達成するための言語活動として、Lesson 2 が位置づけられる。

もちろん、これらの言語活動を支えるのは音韻・語彙・統語をはじめとする言語知識である。当然それも扱うのだが、知識の獲得そのものが目標ではなく、それを使ったタスクの達成が目標となるところに、CAN-DO リストの意義がある。つまり、Lesson 1 では自己紹介の本文を読んで訳して、5文型の練習問題を行って、はい、終わり! というわけにはいかない。生徒が理解できる言語レベルと話す速度で ALT に自己紹介をしてもらい、ペアやグループで自己紹介をするなどの**言語活動を組み込む授業展開**となる。こうして立体的な学習が可能となる。

目標は生徒と共有する。目標が具体的になると、英語を使う自分をイメージしやすくなり、動機も高まる。当該タスクを終えたら、目標となっていた能力記述文を再び読んで、どの程度達成できたか内省する。こうして自らの学習に責任をもつ主体的な態度を育ててゆく。

こう書くと、「それは理想論。うちの生徒たちは英語が苦手。だいたい外国に行くこともないし、卒業後英語を使うこともない」という声が聞こえてきそうである。先生方がそう言ってしまったら身も蓋もない。生徒を全人として教育する学校教育のなかで、英語教育が果たす役割もあろう。

CAN-DO リストの理論的背景

最近、教育機関や研究グループ、あるいはテスト機関などから、独自の「CAN-DO リスト」が公表されている。これらが基盤にしているもの、あるいは基盤にしているはずのものが『ヨーロッパ共通参照枠』(吉島他訳, 2004)である。欧州評議会が2001年に発表したもので、原題は *The Common*

European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment, 頭文字をとって通称 CEFR (セフアールと読む) という。その歴史的・政治的な背景を省略してこれもきわめて端的に言うならば、**コミュニケーションを目的として言語を使うためには、どんな知識や技能を身につけたらよいかを記述したものが** CEFR である。途方もなく広範で複雑な概念である。CEFR とは、突き詰めて言えば「言語学習と言語使用に関する百科事典」(Alderson, 2007) である。

その「百科事典」のコアに「共通参照レベル:全体的な尺度」がある。言語熟達度を A (初級), B (中級), C (上級) の 3 レベルに分け、それをさらに 2 つずつに枝分かれさせて、初級から A1, A2, B1 … という順に、言語を使って何が「できる」かを並べている。たとえば A2 の一部を引用すると、「簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる」(吉島他訳, p.25) というものである。

この「全体的な尺度」に、50 を超える能力記述文一覧が続く。5 つの技能 (listening / reading / spoken production / spoken interaction / writing) ごとに、A1 から C2 の各レベルで、言語を使用してどのような課題がどのような条件下でできるかを示している。

これらを貫く理念のひとつが、行動中心主義 (action-oriented approach) である。言語使用者・言語学習者は、さまざまな活動領域で課題を行うことが求められる社会的な存在であるという考え方である。英語が第 2 言語でも公用語でもない日本にはなじみにくいかもかもしれない。けれども教室をひとつのコミュニティとみなし、生徒一人ひとりがその成員であると考えれば、教室で義務を果たしたり問題を解決したりしながら、コミュニケーション能力が発達すると考えることもできる。

「授業は英語で」と CAN-DO リスト

新学習指導要領は、授業を実際のコミュニケーションの場面として、英語を使う機会を充実させることを求めている。それはスキル向上のためだけではないと思う。英語を使ってクラスメートと課題を行うことにより、対人能力や社会的技能も育つ。英語で文章を読んだり ALT の話を聞いたりして、世界に関する知識を得る。こうして言語に直接関わらない一般的能力も備わっていく。CEFR の行動中心主義という視点を得ると、「授業は英語で行う」ことが重層的な意味を帯びてくる。

コミュニケーションに必要であるが言語と直接関わらない、こうした一般的能力についても、CEFR は詳述している。再び Lesson 1 に戻ろう。生徒が英語で自己紹介をするには、どのような技能、能力が必要だろうか。新しいクラスになじ

みたいという開かれた態度、コミュニケーションをしたいという意欲、自己紹介にどんな内容を含めるかという社会的知識、恥ずかしがらずに自分を表現する力。これらの**一般的能力があつてはじめて、英語の知識・技能が活かされ、自己紹介が成立する**。先生方のしごとは、まず新入生の緊張をほぐし、発言しやすい環境をつくることである。それに成功しなければ、I'm from Nishi Junior High School. や I like playing baseball. などの教科書の表現は、むなしく響くだろう。

希望に満ちて入学する生徒もいれば、第一志望がかなわず屈折した気持ちをひきずっている生徒もいるかもしれない。健全な自尊心を取り戻さなければ、「英語で授業」どころか、日本語であっても先生やクラスメートの声は届かない。CEFR は、自尊心や自意識も実存論的能力 (savoir-être) としてコミュニケーション能力に寄与すると述べている。CEFR の能力記述文は、言語学習者を全人として受け止める理念が前提となっているのである。

CAN-DO リストの設定

さて、「5 つの提言」である。先生方は、学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定することになる。これは学校独自の内部指標である。一方 CEFR は、もともとヨーロッパの言語政策において基準を共通化するための外部指標であり、その性質上、抽象的で汎用性の高い記述になっている。CEFR を基に、教育課程に沿った具体的な能力記述文を考えると、先生方の言語観、言語学習観、教育観がさらけ出され、議論百出になるだろう。CEFR という化け物の巨軀に、人間の小さな手があらゆる方向から伸びて、必死でその姿を探ろうとするだろう。The Blind Men and the Elephant の 6 人は、自説だけが正しいと信じて、終わりのない口論を続けた。けれども私達はそのような愚行はしない。小さな手の感触から得た情報を共有し、それらを有機的に総合し、この新しい概念をできるだけ正確につかもうと努力しよう。そして、それが自分の生徒たちにどのように活かされるかを共に考えよう。**個人がもつ能力すべてがコミュニケーション能力に寄与する**という CEFR の考え方は、全人教育の一環として英語を教える学校教育にあってこそ、具現化していく可能性があるのではないかと思う。

引用文献

Alderson, C. (2007). The CEFR and the Need for More Research. *The Modern Language Journal* 91, 659-663.
吉島茂・大橋理枝 (他) 訳・編 (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社

● ENGLISH NOW I 題材一覧

課	タイトル	題材と目標【○】	主な言語材料
Let's Start : アルファベット/辞書を引いてみよう/ Classroom English / 英語の音になれよう			
Part 1 テーマ: コミュニケーション			
1	"Hello, Everyone."	入学当初の翔太は、簡単な英語でクラスに自己紹介する。 ○自己紹介が出来る。	be 動詞と一般動詞 / 助動詞
2	Text Message	生徒の好きな携帯メール。英語のメールと日本語のメールでは、何が同じで、どこが違うのか。 ○日本語と英語の顔文字の違いを理解する。	疑問文 / 疑問詞を使った疑問文
Let's Communicate 1 電話をかけよう			
英語のしくみ 1 (品詞 / SV / SVC)			
3	How Men and Women Talk	男と女はどちらがおしゃべり好きか。人前が好きか、仲間内が好きか。一概に言えるのかを考える。 ○男女の会話スタイルの違いを知る。	動名詞 / 接続詞を用いた文
Part 2 テーマ: 文化			
4	Sempai and Kohai	「先輩」「後輩」ということばを英語にするとどうなるか、縦社会と横社会の文化を考える。 ○ことばから文化の違いを理解する。	SVOC / It ~ (for -) to ...
英語のしくみ 2 (SVO / SVOC)			
5	Kawaii	日本の「カワイイ」文化がいま外国人にも浸透している。外国人には何が「カワイイ」のか。 ○日本文化についての外国人のさまざまな感じ方を理解する。	現在完了形 / * 現在完了進行形
6	A Friendly Hug	スミス先生が留学する生徒に助言する。「いきなりハグされても驚くことはない。それが文化。」 ○日本とアメリカの挨拶の違いを理解する。	to 不定詞 / * 過去完了形
Let's Communicate 2 買い物しよう			
英語のしくみ 3 (SVOO / 動詞と文構造 / 文構造の5つのパターン)			
R	Reading ① American or Not American?	春子は、日系アメリカ人のアンディーに冷たい態度をとるが、その理由は…。 ○物語を読んで、登場人物の意図や気持ちを理解する。	(復習)
つづり字と発音			
時制を整理しよう			
Part 3 テーマ: 人と社会			
7	Mago no Mise	三重県のある高校では生徒がレストランを運営している。調理も接客もすべて高校生が行う。その苦勞と喜び。 ○ある高校での取り組みについて知る。	現在分詞、過去分詞による後置修飾 / 関係代名詞 (主格、目的格) による後置修飾 / * 関係副詞 (where) による後置修飾
Let's Communicate 3 道案内しよう			
8	Communication in Soccer	本田圭佑はサッカーには、チームワークのためにコミュニケーションは必須と考える。たとえ外国語が苦手でも何とかして、と。 ○サッカーでのコミュニケーションの大切さを理解する。	*SVO (=it) C の文 / * 関係代名詞 what
9	Mottainai	「もったいない」ということばに含まれる意味を考える。 ○「もったいない」ということばがどのように世界に広まっていったのかを理解する。	受け身 / * 「～が…するのを見る」という言い方
R	Reading ② The Story of Wangari Maathai	マータイさんの環境活動にいたる伝記を読み、より理解を深める。 ○伝記を読んで、情景を思いうかべたり、その人物の気持ちを想像したりする。	(復習)
Let's Talk about Your Wishes.			
英語のしくみ 4 (文の中に入る文 / 少し長くて複雑な文)			

高等学校英語指導資料 『ENGLISH NOW の世界』

平成 24 年 4 月 16 日発行

発行 開隆堂出版株式会社 113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1 電話 (03)5684-6115

印刷 株式会社興陽社 113-0024 東京都文京区西片 1-17-8